

指導と評価の計画

学校名	〇〇〇〇高等学校	授業者	〇〇 〇〇
教科・科目	地理歴史(地理総合)	使用教科書等	新地理総合(帝国書院)
学年	第2学年	クラス(人数)	〇組(〇〇人)
内容のまとめり	国際理解と国際協力		
単元名	1章 生活文化の多様性と国際理解		
<p>【生徒観】</p> <p>当クラスは情報系の学科であり、タブレット端末などの情報機器の扱いに慣れている。ペアワークやグループワークで議論させるときなども、真面目に前向きに取り組む生徒が多い。生徒には学力差も認められるが、ペアワークやグループワークをさせることで、足りない力を補いながら助け合って授業を進めている。着眼点がそれぞれ違い、多様で個性的な意見が出て授業内容が深まることが多い。</p> <p>1年生の公民の授業では、自分の思いを言語化することに重点を置き授業を行ってきており、文章で自分の意見を書けるようになってきている。2年生では、MetaMoJiなどで資料から読み取った情報を言語化して、さらに他者に伝えることに重点を置いて取り組んできたが、他者に伝わりやすい表現を考えることが苦手な生徒もいる。</p> <p>【教材観】</p> <p>今回は教科書に掲載されている「ミステリー」※という活動に取り組んだ。ミステリーとは、一見無関係のように見えるテーマのカードを並べ替え、そのテーマの事前・社会的背景などを因果関係とともに解き明かす活動である。グループで話し合いながら、インドのある一家の課題について考えさせ、カードを取捨選択しながらストーリーの作成をさせる。ストーリーの作成において、ただ並び替えるだけでなく、そのカードから読み取ることのできる情報を書き出して文章化し、更に発表の際に他者に伝える力が必要になる。授業で習った内容も踏まえ、いかに資料を深く読み取るかが大切である。</p> <p>※山川出版社『わたしたちの地理総合改訂版』p.142～143 参照</p> <p>【指導観】</p> <p>本単元では、各地域の多様な生活文化が地理的環境、言語や宗教、歴史的背景、産業の発展からどのような影響を受けて形成されているのかについて考えさせる。また、その地域の問題について、生徒に自分事として捉えて思考させるようにすることで、生徒が自分と異なる価値観や生活文化を受け入れ、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解を促したい。</p>			

本指導計画では、大項目 B を単元とし、以下の小単元を設定し、指導計画を構成している。

大項目 B 国際理解と国際協力

- 中項目(1)世界の地形と人々の生活……………小単元1
- 中項目(2)世界の気候と人々の生活……………小単元2
- 中項目(3)世界の言語・宗教と人々の生活…小単元3(本単元)
- 中項目(4)歴史的背景と人々の生活……………小単元4
- 中項目(5)世界の産業と人々の生活……………小単元5

<h3>1 単元の目標</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。 ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を追究しようとする態度を養う。
--

<h3>2 単元の評価規準</h3>						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ・資料などから必要な情報を取捨選択して正しく読み取っている。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・資料などから読み取った複数の情報を組み合わせ、自分の言葉で表現している。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野に見通しをもち学習に取り組み、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。 </td> </tr> </tbody> </table>	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ・資料などから必要な情報を取捨選択して正しく読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・資料などから読み取った複数の情報を組み合わせ、自分の言葉で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野に見通しをもち学習に取り組み、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ・資料などから必要な情報を取捨選択して正しく読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・資料などから読み取った複数の情報を組み合わせ、自分の言葉で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野に見通しをもち学習に取り組み、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。 				

<h3>3 単元における指導と評価の計画（30時間）</h3> <p style="text-align: right;">（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）</p>								
		<p style="text-align: center;">学習活動</p>	<p style="text-align: center;">評価の観点</p> <table border="1"> <tr> <td>知</td> <td>思</td> <td>態</td> </tr> </table>		知	思	態	<p style="text-align: center;">評価規準等</p>
知	思	態						
(1)世界の地形と人々の生活	小単元1(8時間)	<p>単元を貫く問い 各地域の生活文化の形成は何に影響を受け、どのように育まれてきたのか。</p>						
		<p>課題 地形は人々の生活文化の形成にどのように影響を与えているだろうか。</p>						
		<p>・小単元の見通し</p> <p>第①次 大地形と人々の生活</p> <p>・大地形はどのように造られ、どのような特徴があるのだろうか。</p> <p>第②次 河川・海岸地形の地形と人々の生活</p> <p>・海岸地形はどのように利用されているだろうか。</p> <p>第③次 氷河・乾燥・カルスト地形と人々の生活</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p>	<p>○</p>	<p>○小単元を貫く問いに対して見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p> <p>●世界の様々な地形について、内的営力や外的営力によってどのような影響を受けて成り立つのかを理解する。</p> <p>●資料などから必要な情報を取捨選択して正しく読み取っている。</p> <p>●資料などから読み取った複数の情報を組み合わせ、自分の言葉で表現している。</p> <p>●資料などから必要な情報を取捨選択して正しく読み取っている。</p>			

	<p>・小単元の振り返り</p>		○	<p>○様々な地形に暮らす人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>○小単元を貫く問いに対して、主体的に追究しようとしている。</p>
<p>(2)世界の気候と人々の生活</p>	<p>小単元2(7時間)</p> <p>課題 気候は人々の生活文化の形成にどのように影響を与えているのだろうか。</p> <p>・小単元の見通し</p> <p>第①次 気温・降水と人々の生活</p> <p>・気温と降水は衣食住にどのように影響を与えているだろうか。</p> <p>第②次 大気大循環と人々の生活</p> <p>・大気大循環はどのようにしておきているのだろうか。</p> <p>第③次 世界の植生と気候区分</p> <p>・植生は気候とどのように関係しているのだろうか。</p> <p>第④次 各気候の生活</p> <p>・各気候は人々の生活文化にどのような影響を与えているか。</p> <p>・小単元の振り返り</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○小単元を貫く問いに対して見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p> <p>●地球上の様々な現象のメカニズムを理解するとともに、各気候帯の生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり影響を与えたりして多様性をもつことなどについて理解している。</p> <p>●資料などから読み取った複数の情報を組み合わせで自分の言葉で表現している。</p> <p>●資料などから必要な情報を取捨選択して正しく読み取っている。</p> <p>●資料などから必要な情報を取捨選択して正しく読み取っている。</p> <p>●資料などから読み取った複数の情報を組み合わせで自分の言葉で表現している。</p> <p>●資料などから必要な情報を取捨選択して正しく読み取っている。</p> <p>○各気候帯の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○小単元を貫く問いに対して、主体的に追究しようとしている。</p>

<p>(3) 世界の言語・宗教と人々の生活</p>	<p>小単元3 (7時間) (本単元)</p>	<p>課題 宗教は人々の生活文化の形成にどのように影響を与えているのだろうか。</p> <p>・小単元の見通し</p> <p>第①次 イスラームと人々の生活の関わり —中央・西アジア・北アフリカ—</p> <p>・イスラームは人々の生活にどのような影響を与えているだろうか。</p> <p>・乾燥地帯で暮らすムスリムはどのような生活文化を育んできたのだろうか。</p> <p>・国の経済が発展する中で、ムスリムの生活はどのように変化しているだろうか。</p> <p>第②次 ヒンドゥー教と人々の生活の関わり —インド—</p> <p>・ヒンドゥー教は人々の職業や社会進出にどのような影響を与えているのだろうか。</p> <p>・ヒンドゥー教や自然環境は、人々の食生活にどのような影響を与えているのだろうか。</p> <p>・インドが急成長することができた要因と成長に伴う問題にはどのようなものがあるか。</p> <p>・経済発展により、ヒンドゥー教の影響を受けた生活はどのように変化しているのだろうか。</p> <p>・小単元の振り返り</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○ 小単元を貫く問いに対して見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p> <p>● ムスリムの生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。</p> <p>● 資料などから読み取った複数の情報を組み合わせ、自分の言葉で表現している。</p> <p>● ヒンドゥー教徒の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。</p> <p>○ 資料などから読み取った複数の情報を組み合わせ、自分の言葉で表現している。</p> <p>○ 小単元を貫く問いに対して、主体的に追究しようとしている。</p>
	<p>(4) 歴史的背景と人々の生活</p>	<p>小単元4 (4時間)</p>	<p>課題 歴史上の出来事は、ラテンアメリカやアフリカの生活文化の形成にどのような影響を与えているのだろうか。</p> <p>・小単元の見通し</p> <p>第①次 移民の歴史と人々の生活 —ラテンアメリカ—</p> <p>・植民地支配の歴史は、人々の生活文化にどのような影響を与えてきたのだろうか。</p>	<p>●</p> <p>●</p>	<p>○</p>

		<p>第②次 植民地支配の歴史と人々の関わり —サハラ以南アフリカ—</p> <p>・植民地支配の歴史は、人々の生活文化にどのような影響を与えてきたのだろうか。</p> <p>・小単元の振り返り</p>	●	○	<p>●人々の生活文化が歴史的要因から影響を受けたり影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。</p> <p>○ラテンアメリカとアフリカについて、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○小単元を貫く問いに対して、主体的に追究しようとしている。</p>
<p>(5)世界の産業と人々の生活</p>	<p>小単元5(4時間)</p>	<p>課題 各地域では産業を発展させるためにどのような政策を行ってきたのか。</p>			
		<p>・小単元の見直し</p> <p>第①次 経済成長による人々の生活の変化 —東アジア—</p> <p>・東アジアの産業の発展はどのようにして成し遂げられてきたのだろうか。</p> <p>第②次 地域統合が人々の生活や産業に与える影響—ヨーロッパ—</p> <p>・政治的経済的な統合はヨーロッパにどのように影響を与えているか。</p> <p>・小単元の振り返り</p>	●	●	<p>○小単元を貫く問いに対して見直しをもって学習に取り組もうとしている。</p> <p>●東アジアを基に、人々の生活文化が経済成長によって変化してきていることや、政治的経済的な統合のメリットとデメリットについて理解している。</p> <p>●資料などから読み取った複数の情報を組み合わせで自分の言葉で表現している。</p> <p>●資料などから必要な情報を取捨選択して正しく読み取っている。</p> <p>○資料などから読み取った複数の情報を組み合わせで自分の言葉で表現している。</p> <p>○小単元を貫く問いに対して、主体的に追究しようとしている。</p>

4 小単元の目標

- ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が宗教や地理的環境によって影響を受けていることについて理解する。
- ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。
- ・中央アジア、西アジア、北アフリカ、インドの生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を追究しようとする態度を養う。

5 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの地域の生活文化がどのような地理的環境から影響を受けて形成されてきたのか、またムスリムやヒンドゥー教徒の生活が宗教からどのような影響を受けているのかについて理解している。【知1】 ・資料などから必要な情報を取捨選択して、正しく読み取っている。【知2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの地域の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多面的・多角的に考察している。【思1】 ・資料などから読み取った複数の情報を組み合わせ、自分の言葉で表現している。【思2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの地域の人々の生活を知り、多様な宗教や価値観があることを受け入れ、よりよい社会の実現を視野に見通しをもち学習に取り組み、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。【態1】

6 小単元の指導と評価の計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

		学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
第①次 イスラームと人々の生活の関わり	第1時	<p>【単元を貫く問い】 宗教は人々の生活文化の形成にどのように影響を与えているのだろうか。</p> <p>・単元を貫く問いに対して自分の考えを書く。</p>			○	○世界の多様な宗教に目を向け、問いを見出したり予想したりしている。
	第2時	<p>【ねらい】ムスリムの生活や三つの言語集団と生活習慣の地域差について理解し、同じ宗教でも国や地域によって違いがあることを理解する。</p> <p>【課題】 イスラームは人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。</p> <p>・イスラームの考え方や慣習について理解を深める。</p> <p>・サウジアラビア、イラン、ウズベキスタンのそれぞれの写真と3つの言語集団の分布図から、相違点と共通点を書き出す。</p>	●	●		<p>●ムスリムの生活が宗教から受ける影響について理解している。</p> <p>●各々の地域で服装や言語の違いはありつつも、ムスリムたちがアラビア語で書かれたコーランを学び言語や規律を共有していることを理解している。</p>

		・雨温図や写真からそれぞれ気候区分を読み取り、そこに暮らす人々の生活の農業の工夫について説明する。		●		●乾燥した地域では、どのような生活の苦難があり、それを克服するためにどのようにして農業が営まれているのかを表現している。
	第3時	<p>【ねらい】石油資源や石油収入がもたらした生活の変化について理解し、同じ中東という地域の括りでも資源によって地域差があることに気づく。</p> <p>課題 国の経済が発展する中で、ムスリムの生活はどのように変化しているだろうか。</p>				
		・油田の分布と各国一人当たりのGNIの統計地図から、石油の生産量とGNIの関連性を読み取る。		●		●資料から読み取った様々な情報を組み合わせ、地域の格差にも触れながら自分の言葉で表現している。
		・中央アジア・西アジア・北アフリカでは石油資源の開発によってどのような問題が生じるのかを理解している。	●			●石油資源の開発が、人々の生活にどのような影響を及ぼしているのかを理解している。
第②次 ヒンドゥー教と人々の生活の関わり	第4時	<p>【ねらい】南アジアの民族と歴史、ヒンドゥー教と人々の生活への影響、多様な言語が使用されていることについて理解する。</p> <p>課題 ヒンドゥー教は人々の職業や社会進出にどのような影響を与えているのだろうか。</p>				
		・南アジアの国々の成り立ち、ヒンドゥー教の考え方や慣習について理解を深める。	●			●ヒンドゥー教徒の生活が、宗教から受ける影響について理解している。
		・インドではカースト制度によってどのような問題を抱えているのかを考える。	●			●ヒンドゥー教徒が多いインドで、カースト制によってどのような問題を抱えているのか、またどのように改善しようとしているのかを読み取っている。
	第5時	<p>【ねらい】宗教や農作物からみる食生活、巨大な人口を支える農業改革、畜産の発達と食生活の変化について、グラフや統計地図から読み取り考察する。</p> <p>課題 ヒンドゥー教や自然環境は、人々の食生活にどのような影響を与えているのだろうか。</p>				
		・降水量と農業生産の資料から、地域による人々の食生活の違いについて説明する。		●		●正しく資料を読み取り、降水量が農業の生産に与える影響を表現している。
		・インドの食生活の変化を資料から読み取る。	●			●巨大な人口を支えるインドの食生活は、農業や経済の発展によってどのように変化してきたのかを資料から正しく読み取っている。
	第6時	<p>【ねらい】ICT 産業の発展や成長するインドの工業、経済成長による生活の変化について、その特徴を写真やグラフから読み取る。</p> <p>課題 経済成長によりヒンドゥー教の影響を受けた生活は、どのように変化しているのだろうか。</p>				
		・インドの ICT 産業発展の理由を様々な視点から考える。		●		●教育や地理的優位性、カースト制度など様々な観点から、インドで ICT 産業が発展した理由を正しく読み取り、自分の言葉でまとめて表現している。

第7時(本時)	<p>【ねらい】ストーリーの作成を通じて資料を読み取り、これまでに学んだインドの発展の特徴についての知識も活用して自分の言葉で表現する。</p> <p>課題 インドが急成長することができた要因と成長に伴う問題にはどのようなものがあるのか。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> 取捨選択してカードを並べ替えてストーリーを作成する。 カードを並べて読み取ったことを踏まえて、プリントに自分の意見を記入する。 	●	○	<ul style="list-style-type: none"> ●資料などから読み取った複数の情報を組み合わせ、自分の言葉で表現している。 ○インドの発展やそれに伴う問題について考察し、自分の言葉で表現している。
	<ul style="list-style-type: none"> 単元終了後、振り返りシートに単元を貫く問いに対して自分の意見を記入し提出する。 			○ <ul style="list-style-type: none"> ○世界の多様な宗教の存在を受け入れ、さらに調べたいことやよく分からなかった点を整理するとともに、課題に対して主体的に追究しようとしている。

7 本時の展開(1時間分)			
本時の目標		インドが急成長することができた要因と成長に伴う問題について考察し、自分の言葉で表現する。	
過程	分	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価の観点
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 前回の授業の確認をする 前回の授業の質問に対して、グループで確認をする。 本時の課題を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の授業までに読みとることができた内容を確認する。 インドの人口が急速に増加していることや ICT 産業が発展してきた要因について確認をする。
<p>【本時の課題】インドが急成長することができた要因と成長に伴う問題にはどのようなものがあるのか。</p>			
展開1	10分	<ul style="list-style-type: none"> カードの配布と説明 SQ1 アリさん一家のカードを見て、アリさん一家はどのような問題を抱えているのか。 ➡グループで考えて全体で共有する。 ストーリー作成の説明 	<ul style="list-style-type: none"> アリさん一家のカード4枚を見て、読み取ることのできる情報から考えさせる。 14枚のカードを取捨選択して並び替える際に、色の違うカードを必ず三種類は使うようにさせる。
展開2	30分	<ul style="list-style-type: none"> SQ2 アリさん一家が抱える問題の背景には何があるのだろう。 ➡グループで作業し、関連付けられるカードを取捨選択してストーリーを作り、紙に張り付け、書き込む。 グループで作ったストーリーを他のグループと説明しあい、分からない点があれば質問するようにする。 ➡書画カメラで写し発表する。(生徒数名) SQ3 アリさん一家が抱える問題の背景には何があるのだろう。 ストーリーから読み取って3つ書いてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 一見無関係に見える事柄を繋げて一つのストーリーとなるように並び替えをさせる。 カードを取捨選択して、並び替え、それぞれ読み取ったことを書きだすことができる。【知】 アリさん一家の貧困の背景にはカースト制度や州ごとの格差、男女の性差による問題があることに気づかせる。

		→グループでプリントに書き込む →全体で交流	・ビハール州、インド全体のカードから読み取らせるようにする。
まとめ	5分	・MQ に対する解答をプリントに書き込む。 ・MQ に対する答えをクラスで共有する。	・前回、前々回の授業で習ったことを元にして発展の要因を書き込む。また成長に伴う問題としてどのようなものがあるのかを自分の言葉で表現させる。 ・インドの発展の要因やそれに伴う問題について考察し、自分の言葉で表現することができる。【思】 ・教科書には、インドの発展の良い面が大きく書かれているが、インドが抱えている問題にも着目させる。

8 「指導と評価の一体化」を踏まえた学習評価の改善について

(1)各観点の評価について

本校の地歴科では3観点の評価の割合を「知識・技能」35%、「思考・判断・表現」35%、「主体的に取り組む態度」30%でそれぞれ評価している。「知識・技能」に関しては定期考査、「思考・判断・表現」に関しては定期考査と授業内の成果物、「主体的に取り組む態度」においては小单元ごとの振り返りシートと成果物を評価対象としている。

本单元「世界の言語・宗教と人々の生活」では第2次で「思考・判断・表現」について、单元内容終了後に「主体的に取り組む態度」について、評定に用いる評価を行った。前者は授業内のプリント、後者は振り返りシートを使用している。

(2)評定に用いる評価の生徒の記述について

①「思考・判断・表現」

以下は、MQ「インドが急成長することができた要因と成長に伴う問題にはどのようなものがあるのか」を、評価規準²を基に評価したものである。

A「十分満足できる」とした評価

インドはかつてイギリスの植民地であったことから英語が準公用語であり、数学やコンピューター教育にも力を入れているということや、カースト産業の影響を受けにくいという国内的な利点。アメリカとの時差が約半日であり業務の効率化につながるという国外的利点によりICT産業を中心に発展した。またインドは人口増加で経済が成長する人口ボーナス期があるのでこれらの要因が急成長に結びついた。しかし、急激な経済成長による州内の経済格差の拡大や、女性の識字率が全体に低いこと、インド内のカースト制度が未だに根強いなどの問題も多数ある。

人口が増えたのに伴って ICT 産業が発達し、一人当たりの GDP が少しずつ上昇していつている。さらにアメリカとの時差を利用することで業務の効率が上がり、ICT 産業が発展したのだと思いました。それと同時に若者の失業率も上昇し始めているその原因として、農業だけでは稼ぐことができず都市部へ移動するが、給与が低く辞めていってしまうため失業率が高くなっているのだと思いました。そして女性は結婚が早く学校に通えていない人が多く、全体の識字率が低くなっているのも問題だと思いました。

前半に、授業内での既習事項を、後半の下線部は本時の授業で使用した複数のカードの情報を具体的にまとめている。その為「資料などから読み取った複数の情報を組み合わせて自分の言葉で表現」できているとしてAとした。

特に下の解答では、若者の失業率が高くなっている要因としてカードの情報を使って予想をしており、知識を相互に関連付けてより深い思考ができていると考える。成長要因と問題に触れてはいるが、情報量が少なく、情報相互の関連性に欠けるものをBとした。

C「努力を要する」とした評価

ICT 産業がインドに広まる時、カースト制度がなくなった後でそのため ICT 産業のジャーティが分からないので差別がなくなり新しい職種で人口の多いインドでは労働力が多いため、GNI が上がると同時に GDP も上がった。仕事を必要とする人が多いインドでは ICT のような新しい産業が発展しやすい環境であると思う。

こちらについては「インドの成長に伴う問題に触れていないこと」からCとしたが、「書き手の意図が伝わりづらい文章になっていること」も問題だと感じ、生徒に返却する時に、「何を聞かれているのか問題をしっかりと読むこと」「書きたい大まかな内容を考えてから書くこと」「句点をつけること」をアドバイスとしてプリントに書き込み返却をした。

②「主体的に取り組む態度」

以下は単元を貫く問い「宗教は人々の生活文化にどのように影響を与えているのだろうか」を、評価規準^{態1}を基に評価したものである。

A「十分満足できる」

【学習前】宗教は人々の食べ物や生活習慣に影響を与えているイメージはあります。例えばイスラム教(原文ママ)は豚肉を食べない、ヒンドゥー教徒は牛を大切にするなど、宗教ごとに食生活に決まりがあることは知っています。また、宗教は世界に浸透していて、自分自身にも繋がりのあるものだと思います。世界中で異なる宗教を信仰するにあたって、どうすれば対立することなくお互いを尊重できるのだろうかと思ってました。

【学習後】授業を通してインドの例から宗教が食生活や生活習慣だけでなく、価値観や社会の仕組みに深く関わっていることを学びました。ヒンドゥー教では牛は神聖なものとなっていて、牛肉を食べないため、野菜中心の食文化が発達しています。また、古くからあるカースト制度は憲法で廃止されたあとも考え方が残っているのではないかと思います。自分とは違う多様な価値観を理解し合うことがより良い社会を実現していくためには欠かせないものだと思います。

学習前に、自分の宗教に対する認識を言語化することができ、さらに宗教を学ぶにあたっての疑問を学習前に記述できており、学習の見通しが立っている。学習後は授業で習ったことをまとめつつも、下線部のように、よりよい社会の実現に必要な考えをまとめている点で「多様な宗教や価値観があることを受け入れ」「よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている」ためAとした。

B「概ね満足できる」

【学習前】世界には沢山宗教があり、その宗教ごとに食事の制限であったり独特の文化、その土地にもゆかりのある特徴があると思う。今知っていることでいうと、ヒンドゥー教は牛肉を、イスラム教は豚肉を食べない、どの宗教か分からないけど断食しなければいけないということは知っています。それが生活にどう影響するのか知りたいです。

【学習前】授業を通して世界では宗教ごとに決まりであったり、風習があった。ヒンドゥー教では、主にインドについて学び、牛肉を食べることができないため、ベジタリアンが多く、タンパク質をとるため鶏肉や白い革命が起きたことが分かった。イスラム教ではおもに中央・西アジアについて学び、宗教が社会の基盤になっている。1日5回の礼拝だったり、ラマダーンという断食月があって日中飲食ができないなど決まりを守って生活している。国によっては服装だったり、多少の解釈の違いもある。

主に食生活について興味をもち、学習後もその自分の疑問を元に記述できているので、「多様な宗教や価値観があることを受け入れ」ができているとし、概ね満足できるとした。宗教について聞いているにもかかわらず、宗教でない部分(産業や灌漑設備について)をまとめた記述が多い物をC「努力を要する」とした。

9 「研究テーマ」を踏まえた成果と課題

①ICT環境を活かした指導と評価の工夫

今年度授業を行ってみて、もっとICTを効果的に使用できる場面があったのではないかと感じる。例えば、評価に使用した授業プリントや振り返りシートであるが、今年度は使用していた紙による提出を MetaMoji による提出にすることで利点が2つある。1つ目は生徒が自分の文章の書き直しがしやすくなる点である。現在、生徒により思考させてから表現させるための工夫として、文章を提出させる場合、以下のような確認項目をつけている。

◆隣の席の人と○△×で確認し合おう！

文は適切な長さか。() 話し言葉は使われていないか。()
漢字ミスは無いか。() 具体的に書かれているか。()

確認項目で△や×が付いた場合に生徒同士でアドバイスし合い、提出前に書き直しをする姿も見られるようになった。しかし、紙面上で書き直すよりも MetaMoji 上で文字を打ち込む方が内容を再構成しやすい場合もある。2つ目は教員が生徒の書いた内容を見て即座にアドバイスできる点である。今までは考えが深まっていない生徒に対して課題の提出後に指導をしていたが、提出前に的確に指導することで、より自己の考えを深めることができるようになる。ICTを活用しきれない場面があったので今後の課題としたい。

②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組み

主体的に取り組ませるに当たって、授業で扱う題材を身近なこととして捉えてもらう必要があるため、題材選びを工夫し、授業を構成していった。話し合いを通し知識を相互に関連付けて深め、多くの生徒に自分事として捉えてもらえたと感じている。

課題としては、生徒に見通しをもって単元に取り組ませることができなかった点が挙げられる。単元の最初にプリントに単元を貫く問いに対しての意見を書かせたが、意見というよりも中学校に習った内容を羅列する生徒が多く、この単元の見通しを持たせることが十分ではなかったと感じている。今後は、生徒に見通しを持たせられるような問いを設定すること、授業前に生徒に教科書を参考にして追究したい内容を生徒視点で挙げさせるなど、見通しをもって取り組ませる工夫が課題だと感じる。

③「深い学び」を実現するグループワークの実践

研究授業で行ったように、今年度はグループ活動を多く行った。1年次には教員側の都合でクラスを6等分にし、5人程度のグループでグループワークや発表を行わせることが多かった。リーダーシップをとる生徒がいるとグループとし

て意見を出すことはできたが、一部フリーライダーを生んでしまうことが課題であった。

今年度はクラスの状況や難易度に応じてグループ編成の工夫を行った。クラスにとって難易度が低い問いに対しては2～3人、難易度が高い問いに対しては3～4人のグループ構成とした。MetaMoJiを使用した学習では、グループ編集ができる設定とし、生徒が分担して書き込みできるように工夫した。質問は「家を建てるなら地図上のどこに建てるか」「またそれはなぜか」などのように、オープンクエスチョンを心がけ、「知識がないから答えられない」のではなく、GISなど「授業内で提示したツールを元に、考えることで自分なりの考えを出していく」過程を重視した。一人で意見を出すことが難しい生徒も、グループ内の協力を通して意見を出すことができおり、深い学びに繋がったと実感している。

今年度の課題としては、グループでの司会者や発表者が同じ生徒に偏りがちであったことである。来年度は役割を順番に回すことで、今年度以上に積極的に参加できるようになると考える。また、グループ内では意見が出せても、自分自身で授業のまとめの文章を書けない生徒もいた。今後は②でも挙げたように MetaMoJi を活用した提出をさせ、適宜アドバイスをすることで、生徒が深めた学びを文章で表現できるような授業を考えていきたい。